

.....。

飛鳥朝はなぜ奈良につくられたかという問題があります。

まず、大林太良説によるとアジアの、古代では、一番最初ができるのは海上国家、港の近くに都ができて発展するわけです。ところが年月がたつうちに内陸部に入っていく。これはアジアの共通の習慣です。それは戦で、港に都があったら、そこを占領されたら終わりですから内陸部で守りを固めようとした。だから、港というのはあくまで貿易地として発達したんです。そうしてみると、奈良というのはやはり一番守りいい場所で、ここに都が出来るのは実に自然なんです。

路はあまりないんです。当時の交通はほとんど川です。 クリークつてよく中国にあるでしょう。あれと一緒に、**川が水路。八割まで川。** 造られた道は、河内と大和を結ぶ竹内道と長尾道で、もうほんとに二つか三つ、それと獣道に似た小道、**あとは全部川**です。

不思議に思うのは、なぜ中国で紀元前あたりからある馬に引かす車輪が日本にないのかということですが、これは、やはり平野が非常に狭いからなんですね。たとえば、大阪に港があって、大阪になぜ巨大な都をつくれなかったかという、大阪には平野が少ないからです。いまの大阪城から生駒山麓まで河内湖という湖ですからね。となると平野というのは和泉大山古墳(仁徳陵)のあたりから和歌山にかけての海岸沿い。あとは殆ど丘陵と山。だから、馬車を走らせることができなかった。また大和には湿地帯が多い。馬が日本にあまりなかったことが原因ですが、そういう土地の問題も無視できない.....。

『古事記』と『日本書紀』は、どちらも神代の説話から始まっています。

日本民族、日本人の起源を考えるうえで、「記 紀」は重要なポイントになるんです。

「記 紀」ともに、日本の天皇の祖先、国の成り立ちは、天から降臨した神によるものだとなっている。これは、実は北方民族に共通した神話なんですよ。ここで北方民族というのは、旧満州、モンゴル、内蒙古、それから北朝鮮の騎馬民族のことをいうんですが、日輪の子が国をおさめたり、日の神が卵を照らして子をつくったという神話にみられる太陽、天に対する考え方は、北方民族共通のものです。

では、日本人は北から来た民族かという、「記 紀」には南の方の海人族の伝説も入っているわけですよ。

天孫降臨のさいに、海幸、山幸の物語があるんですが、兄の海幸と弟の山幸とが釣針と弓矢を交換し、失った釣針を探しに山幸が海の龍宮城へ潜っ又付って、海神の娘と結婚する。この海幸、山幸の伝説は、中国の江南、呉あたりと共通のものなんです。つまり、**北と南の伝説が合体して日本の神話ができあがっている**んです。

民族的にも混交しているけれど、**南の隼人族というのが北から来た大王家に服従して中央に来て、だんだんと彼らの説話が入ってきた**のではないかな。原『帝紀』から『天皇記』(大王記)、『国記』と、しだいに複雑になってきて、さらに『日本書紀』のときに膨らませるとい段階を経たのだと思う。というのも、日本の神話が他国と比べて非常に複雑だからです。こんな国は、他にはありませんよ。

ギリシア神話はまた別だけど、『日本書紀』は自然観に儒教思想などを加え理論的というより、理屈っぽい英雄伝説的だからね。

日本人は、北から南からいろいろな人種が日本列島にやってきて定着して、人種的に混血になっているようなところがある。

.....。

<この文書は、「**生駒の神話**」(下記 URL をクリック)に掲載されているものです。>

<http://ikomashinwa.cocolog-nifty.com/ikomanoshinwa/>